

とこのあれこれ

Collection - ときコレ

(ハナノキ)

カエデ科の高木で、葉が出る前の早春に濃紅色の花を咲かせるため、木全体が紅く見えます。自生地は岐阜県・長野県・愛知県の非常に狭い地域の湿地帯に限られ、国のレッドリストでは絶滅危惧II類に指定されています。

泉町の白山神社境内には、樹齢千年といわれる老木のハナノキがありましたが、平成19年6月に虫害により枯死してしまいました。

現在、市では、茨城県日立市の森林総合研究所林木育種センターから挿し木によって増殖された幼木を譲り受け、成長を見守っています。

「花」

特集 絵本の力

- 06 市政情報
引越しシーズンに日曜窓口を開設／東濃西部送水幹線が完成／児童扶養手当制度の案内
保健センターの検診登録／バイク・軽自動車などの変更手続き／生涯学習館が開館します
- 08 情報ひろば／土岐市公民館だより
- 10 ときめきの瞬間
- 12 読者コーナー
- 13 土岐市教育夢・絆／給食センター掲示板
- 14 男と女のいきいきコラム／健康ほっとLine
- 15 健康ガイド
- 16 陶史の森だより

市長コラム

災害の備えは普段が大切

間もなく3月11日。皆さん、さまざまな気持ちを抱きながら、この日を迎えることでしょう。災害を風化させず、息の長い被災地支援が必要です。

この震災では、大きな被害を受けた自治体で行政機能がストップし、回復までにかかるの時間がかかったことも、災害時の課題として浮き彫りになりました。

災害時には自分の身を自分で守る「自助」、地域や身近な人が助け合う「共助」、行政や消防団による「公助」の連携が必要ですが、一般的にその割合は、自助／共助／公助＝7／2／1だといえます。いかに自助、そして共助が重要かを示しています。

市では昨年、市内全町を対象に「災害図上訓練(DIG)」を実施しました。DIGとは、参加者が自分たちのまちの危険箇所や支援が必要な人などを確認しながら、災害時の対応策などの情報を地図に書き込んで、地域に合った防災マップを作る訓練のことです。自治会役員をはじめ、町内会長や消防団員、民生委員など約430人の方が参加し、99%の方が「訓練は役に立った」とアンケートで回答されています。

被災地支援をしている団体の方によると、コミュニティがしっかりしている地域は避難所の運営がスムーズにいったそうです。非常時には共に支え合うことが求められますが、普段の地域の関係が基礎になることはいまでもありません。

土岐市長 加藤靖也